資料４－２

指定等の答申をした文化財の概要

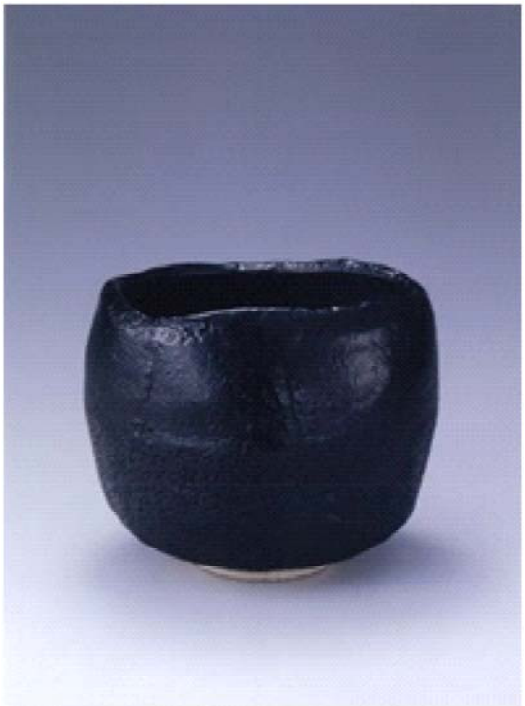
重要無形文化財に答申した文化財の名称　　瀬戸黒（せとぐろ）
重要無形文化財保持者に認定の答申をした者　　加藤孝造（かとうこうぞう）

（１）重要無形文化財の概要

瀬戸黒は、志野・織部などとともに桃山時代に美濃で焼かれた茶陶の制作技法である。釉は土灰（雑木を焼いた灰）に鬼板（酸化鉄、マンガンなどを含む天然原料）等を合わせた鉄釉で、深みのある漆黒の釉調に特色がある。

（２）保持者の特徴

同人は、荒川豊蔵に師事しながら、伝統的な技法の継承による志野・瀬戸黒・黄瀬戸などの桃山陶の制作を長く続けてきた。特に瀬戸黒の制作においてその技法を高度に体得し、独自の穏やかな作風を確立、日本陶磁協会賞金賞や伝統文化ポーラ賞優秀賞を受賞するなど高い評価を得ている。



国宝に答申した文化財の名称
久能山東照宮　本殿、石の間、拝殿　１棟

【所在地】静岡県静岡市

久能山東照宮は、徳川家康を祀る霊廟で、元和３年(1617)に建てられた、本殿、石の間、拝殿の３棟からなる複合社殿である。複雑な構成を巧みにまとめ、細部も整った意匠をもち、江戸幕府における造営組織の礎を築いた中井大和守正清の代表的な建築のひとつとして貴重である。また、江戸時代を通じて全国に設けられた東照宮のうち最初に建てられたものとして、わが国の建築史上、深い意義を有している。

史跡に答申した文化財の名称
垣ノ島遺跡

【所在地】北海道函館市

垣ノ島遺跡は、北海道南部の太平洋に面する海岸段丘上、標高32mから50mの緩斜面に高密度で分布する多数の縄文時代遺跡の中でも、縄文時代早期前半から後期後半までの集落変遷が途切れることなく追える唯一の遺跡である。また、遺跡の規模は南北500m、東西200mの約100,000㎡に及ぶ、他のどの遺跡よりも大きく、当該地域においては拠点的な集落遺跡として位置付けることもできる。特に、早期後半の土坑墓群とそれらに副葬された多数の足形付土版の存在、前期前半には約5,800年前に噴火した駒ヶ岳を起源とする火山灰と軽石の堆積により、生活痕跡が一時的に全くなくなること、中期には一辺10mほどの竪穴建物群が急増して遺跡の規模が最大級になり、出土土器から東北北部との交流がうかがえること、後期初頭から前半に構築された盛土遺構は、南北120m、東西100mの北側が開く「コ」字状を呈し、北海道南部から東北北部の盛土遺構の中でも最大級の規模を有すること、さらには、後期後半を最後に遺跡が全くなくなる事実等は、自然環境との関係を含め、北海道はもちろん東北北部を含めた北日本の縄文時代遺跡のあり方を考える上で極めて重要である。

竪穴建物

足形付土版

答申した重要有形民俗文化財の名称

会津のからむし生産用具及び製品

（１）所有者　　福島県大沼郡昭和村

（２）員数　　３８４点

（内訳）生産用具　３５８点　　製品　２６点

（３）文化財の概要

福島県大沼郡昭和村で生産が行われてきた、からむしの生産用具及びその製品を収集したものである。本州で唯一製品としてからむしの生産を行ってきた当該地域におけるからむしの栽培から繊維採取までの作業過程と実態を示すとともに、生産技術をよく示すものとして特色がある。